

平成 27 年度「インクルーシブ教育システム構築モデル事業(学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進)」
成果報告書

団体名	世田谷区教育委員会
-----	-----------

I 概要

1 事業の概要

○光明特別支援学校を会場とした「ボッチャ」の交流及び共同学習

- ・各交流校とボッチャを通じた交流及び共同学習を行った。

回数等は以下のとおりである。

- 梅丘中学校 1回(中学1年)
- 代田小学校 3回(4.5.6年各1回ずつ)
- 松原小学校 2回(4年)
- 世田谷小学校 1回(特別支援学級 なかよし学級)
- 東深沢中学校 1回(特別支援学級I組)

- ・会場は光明特別支援学校体育館を使用。どの交流も前半に親睦を深める活動をし、後半に、児童生徒同士が交流できるような形でパラリンピック公式種目「ボッチャ」を行った。

○予算の活用

- ・ボッチャボールセットとランプ(投球台)を購入。
ボールセットは公式球2セットと貸し出し用セット2セットを購入。交流及び共同学習で活用した。貸し出し用については、光明特別支援学校で保管し、要請があればいつでも貸し出すことになっている。
- ・ランプについては、光明特別支援学校に保管し交流及び共同学習で活用する。

○運営協議会の開催

- ・10/9 第1回実施 今年度の計画、これまでの実績、意見交換 等
- ・3/7 第2回実施(予定)今年度のまとめ、次年度の予定 等

2 事業の成果

○パラリンピック種目「ボッチャ」に取り組んだこと

これまで、交流及び共同学習では、ゲーム、音楽など様々な活動をとおして、児童生徒同士の心の交流を図ってきた。本事業で「ボッチャ」に取り組んだ理由としては、大きく以下の四点があげられる。

- (1) 重い障害がある児童生徒でも道具等を工夫することで活動できる競技である。
- (2) やさしい競技で、初めて取り組んでも、ルールを理解して楽しめる。
- (3) 「アシスタント」をつけて良いことになっており、例えば「小学校児童がアシスタント、光明特別支援学校児童がプレーヤー」といった役割をすることで、より交流を図ることができる。
- (4) パラリンピックの正式種目であり、来たる 2020 年の東京オリンピックに向けて児童生徒が興味関心をもつきっかけとしたい。

成果として、

- (1) については、ランプという投球台を使うことで、少しの手の動きでボールを投球することができた。
- (2) については、初めて取り組んだ小学生もすぐにルールを理解し、楽しく競技できた。
- (3) については、意図的に協力する場面を作ることで、光明生が投球するときに、小学生が方向を定めるなど、協力して競技する楽しさを感じることができた。
- (4) については、児童生徒が興味をもつきっかけとすることができた。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

○交流から共同学習へ

今年度は、これまで取り組んできた交流学習を「ボッチャ」を通して行うことで、より深めることができたが、共同学習の面では課題がある。現在は的を狙って当てる活動など、簡単な競技内容にしているが、小学生の児童にとっては、物足りない部分もある。正式なボッチャ競技に近い内容にしていくことで、課題解決につなげていくことも考える必要がある。

○出前授業の実施

特別支援学校の教員が小・中学校へ行って「ボッチャ」の指導をする出前授業を企画していたが、様々な理由で今年度は実施できなかった。授業の中で取り組むには、どの授業でどのように取り組むかが課題であり、教育課程外で取り組むには、時間や場所などクリアしなければならないことがある。相談を密にしながら実現に向けて検討していくことが必要である。